

図書だより

NO.24

平成28年12月1日発行
函館工業高等専門学校



～ビブリオバトルの参加者(平成28年10月23日)～

目次

特集 学生の読書感想文…2

大嶋隆先生と『小屯』……………	1
新任教員からのおすすめ本……………	4
図書委員の活動報告……………	6
本校教員執筆図書紹介……………	8
学年・学科別利用状況……………	8
編集後記……………	8

大嶋隆先生と『小屯』

図書館長 中村 和之

学校の蔵書というものは、個人の蔵書とは違って、個性が出づらい。学生に読んで欲しい本というのは、ある程度は共通であるから、学校図書館の蔵書はどうしても同じような構成になりがちである。そのような傾向はあるにしても、学校の歩みのなかで蔵書が作られてきたことから、ある程度の特徴は出てくるものなのである。

今回は、函館高専の蔵書に大変珍しい本があることを学生諸君に紹介したいと思う。それは中国語で書かれた本で、『小屯』というシリーズである。本校には13冊所蔵されている。この本は、中国古代の殷（商ともいう）という国の都である殷墟の発掘報告書である。殷墟からは、亀のこうらや鹿の肩こう骨などが大量に発掘された。その多くには甲骨文字という古い形の漢字が刻まれており、王が占いをして政治を行っていたことの記録であった。漢方医学では、亀のこうらや鹿の肩こう骨を龍骨と呼び、薬として用いていた。殷墟が発見されたのは、漢方薬として売られていた骨に文字が刻まれていたこと

にある学者が気づいたことがきっかけであった。

函館高専が所蔵する『小屯』シリーズのなかには、日本中で数校の大学図書館しか持っていない本もある。ではなぜ、このような本が函館高専にあるのだろうか。それは、学校の創立期に着任し、第三代の学生主事であった大嶋隆先生の存在があったからである。大嶋先生は一般人文系の国語の先生であったが、甲骨文字の研究家としても有名であった。聞くとところによれば大嶋先生は、日本甲骨学会が設立された時に中心メンバーの一人であったとのことである。ちなみにこの学会の初代会長は貝塚茂樹といい、日本で最初にノーベル賞を受賞した湯川秀樹の兄にあたる人である。

大嶋先生が研究のために集めた資料は、図書館の閉架書庫に今でも大切に保管されている。学生諸君の目に触れることはないが、函館高専が研究機関であり、函館高専の先生方が研究者でもあることを、学生諸君も認識していただきたいと思う。



～『小屯』～

甲骨文字を研究する際の基本文献で、その学術的な価値は今日でも高い。著者の一人である董作賓（とう・さくひん）は、甲骨研究の世界的な権威である。



～『人間世』大嶋隆著～

大嶋先生のエッセイ集で、2000年に自費出版の形で刊行された。「庖丁」など、ご専門の漢字の意味に触れている章が多い。

特集 学生の読書感想文



「バンクーバーの朝日」を読んで

タイトル：バンクーバーの朝日

著者名：西山 繭子

出版社：マガジンハウス

2年生産システム工学科1組

蛸子 尊斗



この「バンクーバーの朝日」という本は、新天地に希望を求め昔バンクーバーへと降り立った日本人たち1世と、その2世が結成した野球チーム<朝日軍>の人たちの感動の物語です。

この本を読んで学んだことは人種差別という大きな壁と家族という大切な存在です。

日本人たちが増えるにつれて白人たちの排斥は厳しくなっています。それは仕事だけでなくスポーツでもその排斥は起き、朝日軍はそれにフェアプレーを貫き最後には彼らへの差別はなくなります。

そんな厳しい排斥があったにもかかわらず彼らが活躍できたのには家族の支えがあったからです。最初は主人公とその父親の仲はあまりよくありませんでしたが、とても大事な場面での父親の息子への家族愛はとても感動できる話でした。

もしこの本を読む機会があったら誰でも読みやすいので是非読んでください。また、「バンクーバーの朝日」は映画化もされているので映画も観てみてはいかがでしょうか。



「限界集落株式会社」を読んで

タイトル：限界集落株式会社

著者名：黒野 伸一

出版社：小学館

2年生産システム工学科2組

扇野 瞭虎



1週間で10万部も売れたの!?! 「限界集落株式会社」なにそれどんな内容なのだろうと思ひ僕はその本を手に取り読み始めた。

最初は仕事をやめた今どきの若者でただのニートかよ、つまんなそうだなと思った。しかし読み進めていくと、ちょっと前までのニートだと思っていた主人公の多岐川優が限界集落と呼ばれるほとんど老人しかいない貧しい村を再興するために立ち上がり、その産業である農業で次々と手をうつ。だが、世の中はそんなにあまくはなかった。数々の壁に行く手を阻まれながらも、それを乗り越えて村を豊かにしていく多岐川。そんな彼が少しかっこよく

感じた。

この作品は現在日本が抱える過疎・高齢化・雇用問題・食料自給率などの問題が描かれており、とても現実的で本当にこの作品のようなことをやっている自治体があるのではないだろうかと思えてくる。これを読んで、なかなか田舎も悪くないと思った。同時に自分の能力がどこで一番発揮されるのだろうかとも思った。

現実的な作品なので読んでいるところの情景が頭に浮かんできて、とても面白い作品になっている。一度読んでみる価値はあると思う。



「世界でもっとも貧しい大統領ホセ・ムヒカの世界」を読んで

タイトル：世界でもっとも貧しい大統領ホセ・ムヒカの世界

著者名：佐藤 美由紀

出版社：双葉社

2年生産システム工学科3組

中塚 由菜



ある日、何気なく観たテレビで、私はムヒカの存在を知りました。「世界でもっとも貧しい大統領」

と呼ばれる彼は一体どんな人物なのか気になり、本を買いました。

この本は、ウルグアイ東方共和国第40代大統領ホセ・ムヒカについて書かれています。

彼は若い頃から民族解放運動を行い、労働者の自由を手に入れるために闘っていました。「格差のない社会と自由を夢見て」革命運動にのめり込んでいったムヒカは、4度の逮捕、そして13年間の獄中生活を強いられます。釈放後には、それまでと変わらぬ信念と、それから学んだことを生かして、世界か

ら大注目される大統領となりました。

正直、彼はとても変わり者で、人によってはどうにも理解できない部分もあると思います。しかし、その言葉にはしっかりとした意志と強さが含まれていて、どこか心にささるものがあります。どんな人でも、どこか必ず、考えさせられる彼の言葉。ぜひ一度、読んでみてください。



「アルケミスト：夢を旅した少年」を読んで

タイトル：アルケミスト：夢を旅した少年

著者名：パウロ・コエーリョ

出版社：地湧社

3年物質環境工学科

成田 涼



「明日から本気出す」そんな方にお勧めの一冊です。

この本は羊飼いの少年が夢や導きを頼りに、エジプトにあるという宝物を探しにいく物語です。これを読んで決断することの大切さを感じました。

僕はテスト返却の時、毎回のように勉強しておけばよかったと後悔します。でも次のテスト前には「実際、本気を出したときの俺は凄い」なんて考えを持つことも定番です。何の努力もせずに進学を夢見ていた僕が、まさか本にとっても甘い考えだったこ

とに気づかされるとは思いもしませんでした。この本の主人公は自分の力で羊飼いからアルケミスト（錬金術師）になることができました。それは主人公がしっかり決断することができたからだと思いません。皆さんは自分の将来を自分自身で決断することができますか？「明日から本気出す」ではなく、「今日から始める」のも自分の決断です。自分に迷っている方、自分を変えてみたい方、ぜひ手に取っててください。



「オロロ畑でつかまえて」を読んで

タイトル：オロロ畑でつかまえて

著者名：荻原 浩

出版社：集英社

2年社会基盤工学科

池田 一喜



この「オロロ畑でつかまえて」という本は、今にもつぶれてしまいそうな小さな村と今にも倒産してしまいそうな広告社が、村おこしをする作品です。

このあらすじでは少し穏やかではない空気が流れていますが、この本の作風はとても明るいものであり、内容がまるでコメディ映画をそのまま文字でおっているような感覚を味わえました。また、登場人物の田舎の人間と都会の人間の真逆の特徴が失われる事なく、とても活かされている作品でした。

前に「コメディ映画をそのまま文字でおっているような感覚」と書いたように、この本全体の文章の特徴として回りくどい物でもなく、気軽にサクサクと読むことができ読んでいて疲れることはありません。むしろ、しっかりとした言葉の表現で頭に入ってきてやすいです。

このことから、あまり普段から本を読まない人にも、本を読むのが好きな人にも勧められる1冊だといえます。

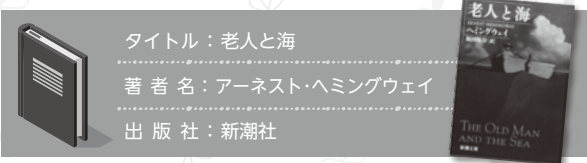
新任教員からのおすすめ本



生産システム工学科
キラチハッタヤコン サラン

“The old man and the sea” is a short novel written by Ernest Hemingway, an American author. It is a story about hope, courage and determination. The main character is an old fisherman who hasn't captured a single fish for 84 days. He sails out alone to the sea, hoping to catch big fishes this time. On the 85th day his bait was taken by the biggest fish the old man ever met. Thus, the three days' struggle fight between a man and a fish begins. Hemmingway wrote the story using simple yet direct and powerful words, making a story full of deep meaning and profound wisdom about life. “The old man and the sea” was awarded Nobel prize in literature in 1954.

The first time I read this book when I was a kid, I didn't like the story much. It doesn't have any fantasy elements like magic, heroes or monster, so I thought it's a bit boring. But when I grow up, I get more and more life experiences. So when I read this book again, I realized that this book taught me many things. The fight between the old man and the big fish symbolized an attitude toward human life. As human beings, it is inevitable that we will face many problems and challenges. What we can do is to continue to do to the best of our ability. The failure can take away success but as long as we don't give up, our spirit can remain undefeated. As a well-known quote in this book “Man is not made for defeat. A man can be destroyed but not defeated” is the good sum up of this whole story. I think reading this book will give you hope and courage. If you need an inspiration during your challenge and difficult time, this book is my recommendation.

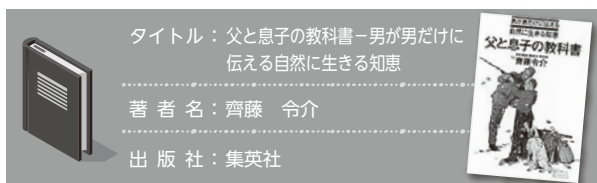


タイトル：老人と海
著者名：アーネスト・ヘミングウェイ
出版社：新潮社



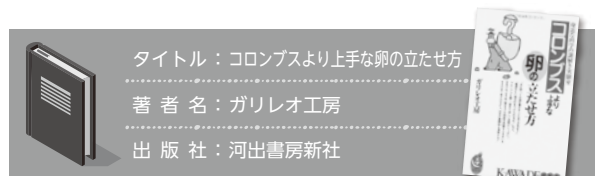
生産システム工学科
圓山 由子

私は学生の頃、学校推薦図書はあまり読まず、自分が興味を持った本ばかりを乱読していました。雑な読書生活を送ってきましたが、その中で面白いと感じ、少なからず人生に影響を与えた本を紹介します。どの本も好きな章から読み始めて大丈夫なので気軽に手にしてみてください。

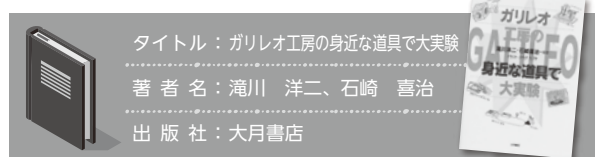


タイトル：父と息子の教科書—男が男だけに
伝える自然に生きる知恵
著者名：齊藤 令介
出版社：集英社

主にアウトドアで役立つテクニックについての本ですが、それ以外にも、非常時に知っておきたい「生き延びるための知恵」が多く紹介されています。例えば、高所から飛び降りる場合にぶら下がって高さを減らす方法を知ったときは目からうろこでした。タイトルは父と息子ですが、老若男女関係なく役立つサバイバルの知恵が満載です。

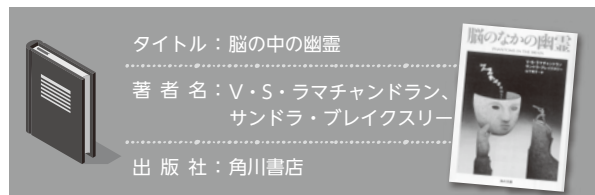


タイトル：コロンブスより上手な卵の立たせ方
著者名：ガリレオ工房
出版社：河出書房新社



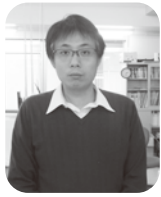
タイトル：ガリレオ工房の身近な道具で大実験
著者名：滝川 洋二、石崎 喜治
出版社：大月書店

実験は実験室で行うものという固定観念を覆してくれる本です。簡単な例として真っ暗な部屋でペンチ等で氷砂糖を潰すと、青白い励起光が観察できます。他にも電子レンジでプラズマの火の玉を作るなど本格的な実験もあり、高専生の知的好奇心を満たしてくれると思います。



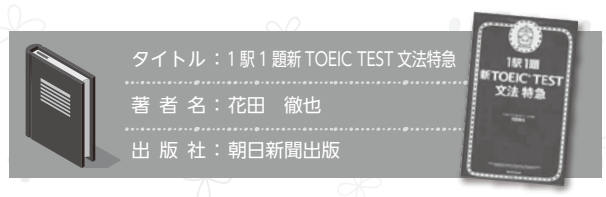
タイトル：脳の中の幽霊
著者名：V・S・ラマチャンドラン、
サンドラ・ブレイクスリー
出版社：角川書店

人間は脳という器官により「作られた」世界を見ているのだと実感させられる本です。本書では主に幻肢という手足を切断したにもかかわらず、無いはずの手足が存在するように感じる症状について述べられています。他にも、笑い死にした女性、神と辺縁系など日常の動作や感情から超常現象とも捉えられる体験まで全て脳のはたらきの結果であると解説しています。本書は本年度、本学図書館に配架される予定です。



一般人文系
須藤 絢

今年度から、専攻科の推薦基準がTOEICだけになりました。なかなか基準スコアを取れない、TOEICの対策本がいろいろありすぎて何を選んでいいのかわからない、そんな問題を抱えている人も増えてきているのではないかと思います。おすすめ図書としてTOEICの対策本を紹介したいと思います。図書館にもあるのですが、私のおすすめ図書はTOEIC TEST特急シリーズです。シリーズというだけあり、文法に特化したものや単語、リスニングに特化したものなどいろいろあります。どこを勉強したいかで選ぶ本は変わりますが、私がこのシリーズをおすすめする一番の理由は本が小さいことです。とても小さい作りになっているので、ちょっとした空き時間や通学時にも少しずつ読み進めることができます。大きく厚い本だとなかなか開こうという気持ちになりにくいですが、カバンのちょっとし



タイトル：1駅1題新TOEIC TEST 文法特急
著者名：花田 徹也
出版社：朝日新聞出版

た隙間に入れることができるこのシリーズは、英語の勉強が続かない人にもおすすめです。

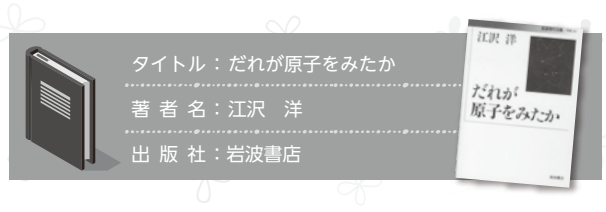
さて、そんな特急シリーズでも特に私のおすすめは、「1駅1題 新TOEIC TEST文法特急」です。TOEICの文法について書かれているのですが、1ページに問題とヒント、その裏のページに細かい解説が書かれています。なぜこの本がおすすめかというと、解説がとっても細かいのです。TOEICの対策本はたくさん出ているのですが、解説を読んでも意味が分からないなどといったことがしばしば起こります。今までにTOEIC対策の本を買ったけど続かなかった、解説が分からなかったという経験をしたことがある人は、ぜひこの特急シリーズを試してみてください。また、これからTOEICの勉強をしようとする人も、ぜひ手に取ってみてください。



一般理数系
水野 章敏

今年度から1年生対象の化学Iの講義を担当し、「物質を構成する最小単位の粒子が原子である」と教えている。講義では、この目に見えないはずの「原子」やその内部構造をなにかば天下りのように教えており、現代の原子の描像にどのように至ったかについては、伝えることがほとんどできていない。したがって、皆さんの多くは本書のタイトルのような疑問をもつだろう。

著者は、人類がたどった科学の歴史を振り返り、だれが原子を決定的にみたといえるのか、読者へ問いかけながら考察をすすめていく。中学生や高校生の読者も対象としているとのことだが、380ページにおよんで書かれている言葉や表現は、現代の高専生でも読み通すには骨が折れるかもしれない。難しいと思うところは後で戻るともりで、ぐっとこらえて読み進めると、皆さんが今後習うであろう、ある



タイトル：だれが原子をみたか
著者名：江沢 洋
出版社：岩波書店

いは既に習った原理や法則を導きだした科学者たちの仕事がつぎつぎとあらわれる。原子の考え方そのものは古代ギリシアの時代からあったが、近代の原子の描像に至るには長い時間が必要であったことが語られていく。さらに、かつて提案された仮説を検証するため、著者自ら中学生や高校生と共に実験を再現しており、その部分を読むだけでも、教科書に出てくる原理や法則に親しみがわくであろう。中には、自分でもやってみたいと思う人も出てくるかもしれない。そんなときはぜひ声をかけてほしい。すべては難しいが、いくつかの実験は函館高専にある設備を使えばできるはず……。

この本のはしがきにもあるように、急がずに時間をかけて、紙とペンをわきにおいて、あれこれと考えながら読むことをすすめたい。

図書委員の活動報告

図書委員代表になってみて

2年生産システム工学科 1組
小林 陽昭



本委員会は今年から体制が変わり、先生や職員の方の指示での活動から学生主体の活動になりました。委員会は学生会活動の一部なのでこちらが本来の活動の仕方といえます。具体的に変ったことといえば、行動はもちろんのこと、企画や計画も自分たちで行うようになりました。例えば、6月末に行った朗読会は演劇愛好会に協力して頂き、劇と朗読の両方を不思議の国のアリスに絡めることで今までにない新しい形の朗読会になったのではないかと、思います。

それらをまとめる立場は僕には少々荷が重かったような気もしますが、非常に良い経験になり、学びの場として活用させていただきました。

最後に、本委員会に関わって頂いた学生、教職員の皆様、ありがとうございました。

<POP・企画展示>

2年生産システム工学科 3組 打越 巧基

今回僕は、POP・企画展示という仕事に就きました。僕は、学生図書委員ですが、あまり本を読むほうではありません。本を読むというより、本がたくさん置いてあるところが好きで、学生図書委員会に所属しています。そんな僕が、今回POP制作のため、久々に本を読んでみて、改めて本の面白さを知りました。本には、文字でのみ話が描かれていて、読み手によって、いろいろな感じ方があるので、たくさんの人にもっと本に触れてもらいたいと思いました。

そこで今回のPOP制作班でおすすめした本をぜひ読んでいただきたいと思います。

今回のテーマは、「いざ、読書。」なので、あまり本を読んだことがない人でも、すぐに読める本ばかりがそろっていると思います。今回、僕は展示してあるPOPを見て、すごく本が読みたくなりました。今回、僕たちが作ったPOPを見て、僕と同じ気持ちになってくれた人が一人でもいてくれたらうれしいです。また、このPOPを通じて本を手にとってくれたらいいなと思います。



～テーマ「いざ、読書。」本の展示～

<ブックハンティング>

2年物質環境工学科 安田 啓真

昨年、クラス図書委員の呼びかけによって、有志で参加させていただいたブックハンティング。今年度は正規の図書委員・ブックハンティング担当という事で本屋に出向きました。ブックハンティングとは学生が図書館に置く本を自分達で選びに行く活動で、図書委員と有志で例年行っております。

昨年は小説や自己啓発本など自分の読みたい本を選びましたが、今回は図書委員として学内の様々な人に読んでもらえる本を選ぶと努めました。

そして、私の選んだ本が貸し出されているのを見た時は、誰かにその本を読んでもらっている事に感激し、同時に読んで下さった方への感謝の気持ちが溢れてきました。

高专という理系の学校では、図書館を訪れてみると、もっぱらPCコーナーで作業している人を見かけます。しかしこの学校にはブックハンティングという“読みたい本を選び、読める環境”があります。この環境を是非無駄にせず活用して欲しいと思います。



～ブックハンティングに参加した学生のみなさん～

< 朗読会 >

3年生産システム工学科 横江 未友輝

平成28年6月29日、図書館前ホールにて朗読会を行いました。

私は図書委員朗読会班のメンバー、また朗読会の朗読者としてこの朗読会に参加していました。

前回の朗読会にもスタッフとして参加していましたが、前回よりもスタッフの人数が多く、仕事量も増えたことで、最初は戸惑いしましたが、他のメンバーも頑張ってくれたので特に大きいトラブルなどなく無事に開催できてよかったです。

また今回は朗読者という表舞台に立つ経験もさせてもらい、さまざまな経験が出来とても楽しかったのと同時に緊張もたくさんしました。

ですが、聴きに来てくださった方々の、「とてもよかった」という声を聞き、スタッフとしてとても誇りに思いました。

最後に、朗読会班のメンバーの皆さん、図書館のスタッフの方々、先生方、この場を借りてお礼を申し上げます。ほんとうにありがとうございました。



当日、朗読会の前に
上演してくれた演劇愛好会
[Alice in Bookland] (本の国のアリス)



～「新注 不思議の国のアリス」～



～「世界から猫が消えたなら」～



～「ご冗談でしょう、
フィンマンさん」～



～朗読会参加者・演劇愛好会のみなさん～

< ビブリオバトル >

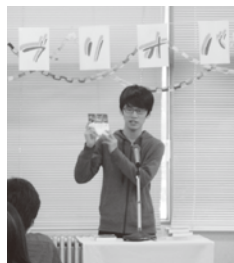
2年生産システム工学科2組 佐藤 圭悟

図書委員会は発足して2年目ということで、雰囲気は新鮮かつ全てが手探りで、自分たちで協力して企画していけるということがとても楽しかった点です。

1年生の時もビブリオバトルの担当をさせてもらったのですが、1年目という事で本格的な活動ではなく、学生会もほとんど関係なくやっていました。また、参加者も少なかったのですが、ビブリオバトルの企画をしていくうちに、自分が知らないジャンルの本を誰かに紹介してもらうことで、その本のことを知る面白さや、自分の考えを相手に伝える難しさと面白さを知り、2年生でもビブリオをやりたいと思い、担当させてもらいました。

今年度は1年生に対して説明会も開いたのですが、参加者は一人ということで少しがっかりしました。しかし、本番の高専祭の時には発表者六人とたくさんの参加者に来ていただき嬉しく思いました。

まだ、図書委員会は出来たばかりなので、ビブリオはもちろんのこと、もっといろいろな企画で図書館を盛り上げて欲しいなと思いました。



★チャンプ本★
～「ウォーリアーズ」～

～「母さんの「あおいくま」」～



～「コーヒーが冷めないうちに」～

～「海賊とよばれた男」～



本校教員執筆図書紹介



小林 淳哉 (物質環境工学科)

①『授業カアアップ アクティブラーニング : グループ学習・ICT活用・PBL』 (実教出版)

アクティブ・ラーニング型の授業を行いたい教員に必要なスキルとチェックポイントを説明した「教え方の指導書」です。



②『Professional Engineer Library 化学』 (実教出版)

高専機構として全学生に共通な化学の内容に準拠した書籍です。予習や復習問題を盛り込み、知識の社会への適用も意識できる内容です。



中村 和之 (一般人文系)

①『北海道史研究協議会編北海道史事典』 (北海道出版企画センター)

北海道の歴史の研究者が分担して執筆した辞典で、「北からの蒙古襲来」の項目を担当している。



②『Средневековые Древности Приморья』 (『中世沿海州の遺物』第3号) (ロシア科学アカデミー極東支部歴史学・考古学・民族学研究所)

ロシア連邦のウラジオストク市で発行されている雑誌で、「モンゴル時代の女真の活動」ほか2篇の論文(ロシア語)を発表している。



学年・学科別利用状況

学年・学科別 貸出冊数 (2016年4月1日-9月30日)

学年	組	1組	2組	3組	4組	5組		学年別計	
1年		32	21	42	49	20		164	
学年	学科	生産システム工学科			物質環境工学科	社会基盤工学科	1・2年生のみなさんもこのペースで続けてください	学年別計	
		1組	2組	3組					
2年		28	14	24	27	31		124	
学年	学科	生産システム工学科			物質環境工学科	社会基盤工学科	3年生産システム工学科のみなさん、ぜひ図書館にお越しください!	学年別計	
		機械コース	電気電子コース	情報コース					
		3年	2	4					1
4年		32	29	19	62	9		151	
学年	学科	機械工学科	電気電子工学科	機械工学科	物質工学科	環境都市工学科	生産システム工学専攻	環境システム工学専攻	学年別計
		5年	138	227	59	243	37		
専攻科1年							16	8	24
専攻科2年							37	7	44
									1278

- ・クラス別平均貸出冊数は、44冊でした。
- ・一番多く本を借りたクラスは5年物質工学科で、243冊でした。

(総計)

編集後記

図書館だよりNo.24をお届けします。今号の特集は秋の夜長にぴったりのテーマ「学生の読書感想文」です。執筆は新学科の2-3年生にお願いしました。新学科には1年からコミュニケーション科目があり、多くのレポートをこなさなければなりません。けれどもこのような依頼があったときにはその成果がいかに発揮されるのです。執筆してくれた皆さん本当にありがとうございました。さて、冬休みには読書に多くの時間を割くことができます。ゲームやテレビもいいですが、心機一転、たまには読書にも取り組んでみませんか？

(奥平 理記)

図書館だより NO.24

独立行政法人 国立高等専門学校機構
函館工業高等専門学校 図書館

函館市戸倉町14番1号
TEL 0138-59-6314

表紙題字：5年電気電子工学科 菊地浩太